

## 2. 財政状態に関する定性的情報

当第2四半期会計期間末における連結ベースの総資産額は、前年度末比2兆1,058億円減少し1兆5,314億円となりました。また、純資産額は前年度末比1兆4,912億円増加の6兆1,030億円となりました。そのうち株主資本は、6月と7月に実施した新株式の発行のほか、中間純利益の計上等により、前年度末比9,680億円増加し3兆5,672億円となっております。

主要な勘定残高としましては、預金が前年度末比3,985億円増加し75兆9,680億円となり、貸出金は同5,792億円減少し64兆5,562億円となりました。このうち、三井住友銀行単体の貸出金は、海外での慎重なアセット運営や中国拠点の現地法人化の影響等により、前年度末比1兆3,426億円減少し58兆8,987億円となっております。

また、連結ベースの金融再生法に基づく開示債権の残高は、前年度末比694億円増加の1兆7,226億円となりました。不良債権比率は前年度末比0.11%増加して2.39%となっておりますが、引続き低い水準を維持しております。